

地域からはじめよう!

環境出前講座

を開催しませんか?



「温暖化について詳しく知りたい」「家庭でも取り組める活動を紹介してほしい」といったご要望がございましたら、各地域の推進員に出前講座の開催を依頼することができます。楽しい教材に子供たちも大喜び! みなさんも環境講座を開いてみませんか?

無料

主婦向け 家庭でできる省エネ講座

エアコンやテレビ、冷蔵庫など、講座を受けてすぐに実践できる省エネ講座。家計の節約にもなりますよ。

子ども向け 環境学習講座でエコまなぼ

ちょっと難しい省エネも、ゲームを通して楽しく学べます。省エネは子どもたちから率先してする時代へ。

工作編 -大人も子どもも楽しめる- エコバッグづくり

新聞紙を再利用して、エコバッグを作る講座。新聞紙がオシャレなエコバッグに変身します!



▲イベントに出展の様子



▲新聞エコバッグ

その他にも、様々なテーマに対応した講座が実施可能。

<<出前講座開催までの流れ>>

1 出前講座開催の申し込み

センターのホームページ(<http://nccca.jp>)より申込用紙がダウンロードできます。実施予定日の**1か月前**までに申込書をセンターへ提出してください。

2 センターから各推進員へ連絡・日程調整

学習の時間 / 原則午前10時～午後5時までの間90分以内
講師料 / **無料**(講座に必要な材料等を用意していただく場合がございます。)
※曜日、時間等とはご相談ください。なお、諸事情によりご希望に添えない場合がございますが、あらかじめご了承ください。

3 出前講座受付確定・実施

出前講座申込者へセンターから実施確定の連絡があり、当日推進員が伺います。

開催条件

- ※開催場所は県内に限ります!
- ※5人以上から開催可能です!



長崎県地球温暖化防止活動推進センター

お問い合わせ

住所:長崎市元船町17-1 公益財団法人ながさき地域政策研究所 内
TEL:095-820-4868 FAX:020-4623-5633 <http://nccca.jp>

エコnaga+

発行月 / 平成 29 年 4 月 編集 / 長崎県地球温暖化防止活動推進センター 発行 / 長崎県環境政策課
〒850-8870 長崎市江戸町 2-13 TEL / 095-895-2512 FAX / 095-895-2566

エコnaga+^{プラス}

オシャレなあなたは始めてる



低炭素杯2017

特集/低炭素杯受賞者

- 諫早農業高等学校
- 佐賀市上下水道局(佐賀県)
- 九州版炭素マイレージ制度推進協議会

エコまち

- 波佐見町
- 川棚町

第35号

2017.04

「エコnaga+」とは…

「エコnaga+」は「長崎県地球温暖化防止活動推進センター」が制作している環境冊子です。長崎県環境政策課より発行され、県民の環境への意識を啓発するための内容となっています。環境の最新情報や環境コラム、また県内企業や個人、団体の環境の取り組みなども紹介し、楽しく読める盛りだくさんの内容となっています。発行：4回/年
 配布先：各行政機関等（当センターへお尋ねください）

長崎県地球温暖化防止活動推進センターとは…

「地球温暖化防止活動推進センター」は、各都道府県に設置されており、長崎県の当センターもその中のひとつです。地球温暖化防止活動に関する「啓発・広報活動」、「活動支援」、「調査」などを行っており、その一環として、「エコnaga+」で情報を発信しています。
 ※本誌内では、〈センター〉と表記

長崎県地球温暖化防止活動推進員とは…

「長崎県地球温暖化防止活動推進員」とは、地球温暖化防止のために自ら省エネルギー、省資源に取り組むとともに、地域住民の方々へ温暖化に関する情報の提供と温暖化防止活動の普及を進めてくださる方々です。県から委嘱を受け2年間の任期で推進活動を実施します。
 ※本誌内では、〈推進員〉と表記

今号の取材



CONTENTS 目次

- 1 きらり！
温暖化防止活動推進員ご紹介
県央地区
川棚 幸子さん
- 2 エコまち
川棚町
ハラサングョウ
株式会社
- 4 エコまち
波佐見町
ゴミを出さずに地域活性
西の原
- 6 未来のために、いま選ぼう。
クールチョイス
- 7 長崎県の
エコドライブ
- 8 特集
低炭素杯2017
- 12 県内推進員の活動を紹介
みんなで
取組んだ活動
- 13 長崎県からの
お知らせ



県央地区推進員
 川棚幸子さん

まずは、ご近所さんから一緒に活動。
 楽しみながら続けていると、推進活動も楽しくなりました。

川棚町の川棚さん。このまちのすべてを知っているような、そんなお名前です。推進員はまだ1年目。それでも川棚さんは、地区研修会で積極的に発言されている光景が印象的です。それもそのはず、活動実績が大変豊富なのです。廃油石鹸の製作販売やぼかし作り、大崎半島で小学生を交えた空き缶拾い、そして猪俣川での水生生物の観察会など、実に幅広い環境活動を「いのちとくらしを守る会」13名の方々とともに取り組んでいるそうです。

▼大崎半島周辺清掃



推進員になったきっかけは、町婦人会の生活環境部の担当になってから7年間活動をしていたところ、お誘いを受けたことです。実は、息子さんが環境と水質の研究所に勤務しているようで、環境への関心がもともと高いご一家です。普段の活動の中で取組んでいるのは、廃油石鹸製作。凝固が早い夏場がベストシーズンですが、その原材料となる廃油を町内の飲食店から集め、製作すると重労働です。しかし、製品については、廃油で作った石鹸がふきんを真っ白にしてくれると、町の文化祭で好評をいただき、大量に購入されるファンもいるようで、たくさんの方々に笑顔を配ることができるのは、活動の支えになっているそうです。また、水生生物調査の際、地元の長崎県環境アドバイザーの方と、小学生と一緒に観察会を行ったり、大村湾の美化を意識した大崎半島での空き缶拾いを小学生、保護者、行政の皆さんと一緒に取り組んでいるそうです。今後は、地域の人たちと一緒に、省エネ活動や清掃活動そしてリサイクル活動などを、世代を超えて広めていきたいと笑顔で語る川棚さん。行政の方々もしっかり協力しながら活動を継続させていきたいですと、顔がほころんでいます。



▲水生生物調査

推進員の活動内容

- 自ら地球温暖化防止に資する行動を実践すること
- 市町や住民などの依頼に基づき、住民に対する普及啓発活動を行うほか、自ら活動計画を企画し、自主的な普及啓発活動を行うこと
- 県内の各種団体等が行う地球温暖化防止に関する活動への協力
- 地球温暖化対策に関する情報、事例、意見等を県・市町及び住民へ提供

県からの委嘱を受け、現在71名の推進員が県内各地で推進活動を行っています。



ハラサンギョウ 株式会社

川棚町

捨てない、という選択

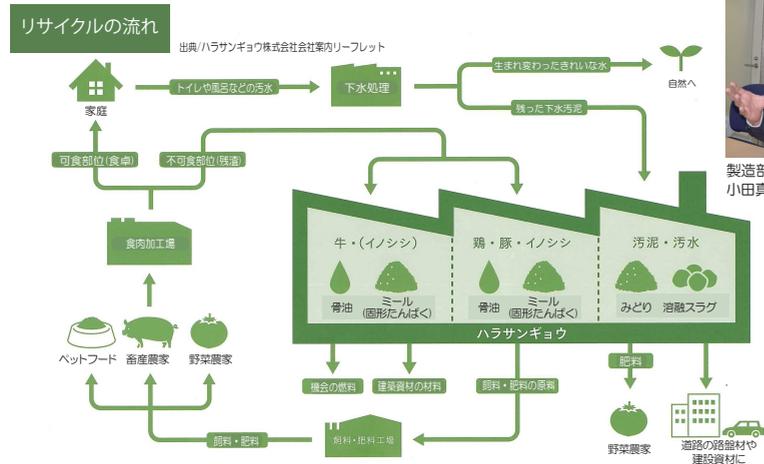
エネルギーをつなぎ
食材をつないでいる
企業だよ！
すごいね！



私たちは捨てない。パンフレットの最初の見開きに、そう大きく書くこの企業には、私たち人類の今の日常と未来の安心に対する挑戦とも受け取れるような、環境への熱い思いを感じることができる。

昭和 45 年 (1970 年)、化製事業を興したハラサンギョウ株式会社は、現在従業員数 102 名の食品リサイクル企業である。食品といっても、今流行の

「まだ食べられる」ものをリサイクルするのではなく、食卓には並ばない不可食部位と呼ばれる、食肉加工工場から排出される残渣 (ざんさ) をリサイクルする施設である。不可食部位とは、鶏の羽根や牛豚の内臓、皮膚、骨など、私たちがスーパーで見かけることがないであろう部位のことである。これらは加工される段階で排出されるごみであるが、私たちが「食べられない」



製造部長
小田真司さん

集めて処理する工場、そこはまるで調理場だ

だけであって「使えない」わけではない。牛乳販売を通じ知り合った畜産農家の方々から聞いた話がヒントになって、この業界でビジネスを興すきっかけになったという。そもそもなぜここに目をつけるようになったのか？食肉工場では、原料となる畜産物が運び込まれ解体処理された後、製品である“正肉”となるのは 60%以下。40%~ 60%が副産物として食べられない部分がまだまだ多いという特徴がある。このような背景を知ったハラサンギョウは「捨てない」選択をすることが、これからの地球にも私たち

人類にも必要であると実感したという。今から 50 年以上も前のことである。

九州全域から集められた不可食部位は、150℃の水蒸気にさらされる。これは油を使わない“天ぷら”と同じで、1~2時間で水分を飛ばし乾燥させるために行う。“天ぷら”に調理された残渣は、パーコレーターという分離装置に送られる。これは動物性油とたんぱく質部分となる肉の「固液分離装置」である。前者は骨油としてペットフードの原料になったり機械の燃料としても利用されたりする。後者はミールと呼ばれる固形たんぱく質であり、肥料、飼料そしてペットフードの原料として“食べられる”製品と



つなぐこと、それが未来への架け橋

なって戻ってくる。この工場に隣接する場所には、別のプラントがある。産業廃棄物である汚泥を処理する施設では、800℃という高温で汚泥を焼却している。このときに発生する熱を100%利用して蒸気を製造、先の“調理場”で使ったり発電タービンで場内補助電力として利用している。また焼却した灰をスラグ化して、建設資材等にもリサイクルしている。通常なら廃棄として大気中に放出してしまうエネルギーを丁寧に集めて、別システムにエネルギー融通することで、システム全体効率が向上し、地球温暖化対策に寄与するというわけだ。また施設の性質上、臭気対策は大変重要である。そこで施設では、3つの力をつないで対策を行っている。パーコレーター等から発生する臭気は、土壌脱臭場で微生物による分解を行ったり、流動床式焼却炉で臭気を燃やしたり、水洗脱臭等で水に臭気を吸着させ処理している。土、火そして水といった、自然のチカラをつなぎあわせた対策に、持続可能な未来につながる工場を見ることができた。



副産物の割合

食用内臓	骨	脂	非食用内臓	皮	血液
8.8%	10.7%	7.0%	7.2%	9.5%	3.0%

出典/ハラサンギョウ株式会社社内リーフレット



ハラサンギョウ株式会社 / 東彼杵郡川棚町三越郷 51-2

波佐見町

波佐見町は、人口約15,000人。古くから焼き物の町として有名です。最近、古い建物を活かしたスポットが注目を浴びています。エコなが+スタッフは、その注目スポットをエコの視点から取材してきました!



できるだけ
雰囲気に合うものを
揃えたら、
ゴミを出さないことに
繋がった。



400年以上の歴史を持つ「波佐見焼」。庶民の焼き物として親しまれ「くわんか碗」とも呼ばれる波佐見焼は、丈夫で割れにくく手頃な価格で手に入る事が特徴です。木立の中にカフェ・レストランや雑貨屋などが点在するこの西の原は、もともと幸山陶苑という江戸時代から十代にわたり波佐見焼を生産してきた窯元が営む製陶所「福幸製陶所」がありました。

使われなくなったこの福幸製陶所を買い取り、若手陶芸家が自由に使える場所を作ろうと考えていた西海陶器株式会社の小林さん。一人の若手陶芸家に場所を提供したところ、彼を頼って東京から来た若者がカフェを始め、その後雑貨屋や軽食屋ができ、今に至っています。平成24年に国の有形文化財に登録され、同年、長崎県のまちづくり景観資産としても登録されました。その魅力を聞きつけて、今では県内外から多くの若者がここを訪れています。



路面に「どち」を使って模様を作っています

古さを生かしたやさしい場所

西の原では家屋だけではなく、窓や扉など建具も当時の物を使っています。窯は平窯に手直しされ、ピザ焼きなどに使用しています。窓辺にはろくろ跡と干し場が今も残され、配電盤も当時のものに新規のものを追加しただけ。不足の建具は町内で解体予定の家屋や学校から引き取り再利用しました。また、敷地内いたるところに目に付く丸い模様は、当時の窯詰め道具の一種「どち(焼成時の作品のくつつき防止材)」を利用しています。照明にもこだわりの、屋根をくり貫き自然光を取り入れ省エネに努めている他、ここでは全ての施設で薪ストーブが使われ、柔らかな癒しの空間となっています。薪を使うことで、森林整備が行われ、森林吸収によるCO₂削減にも寄与しています。



廃校になった学校から引き取った机や椅子を商品のディスプレイに使用しています。



背もたれがぼろぼろの椅子。カバーをかけた見栄えが良くなりました。



建物がエコだけではなく、併設施設「Library833(はさみ)」では、図書館も設けており、蔵書は全て町民に呼びかけて集められ、波佐見町長も本を持ち込んで下さったということです。西海陶器の小林さんは「残していくためには、ほんのちょっとだけ手を加えて活かすこと。そしてできるだけゴミを出さないよう大切に使う。そうした思いが今の時代に合い、若者を集めているのかもしれないね」。古いもの、不便なものをどう生活に取り入れるか、工夫しながら使い続けることも、また地球温暖化防止にも繋がるのかもしれない。

お話を伺った、
西海陶器株式会社
常務取締役
小林義輝さん





未来のために、いま選ぼう。

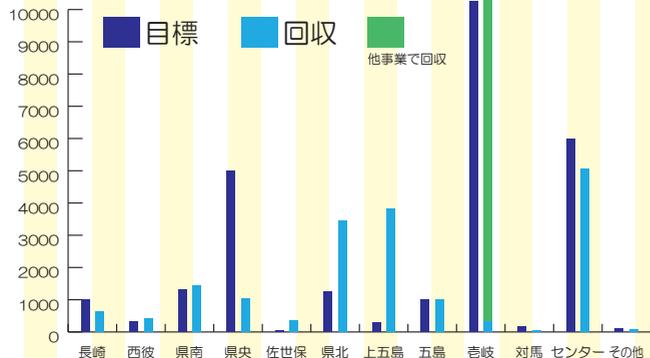
お陰さまで 27,141cc

※CC=クールチョイス

「COOL CHOICE」とは、2030年度の温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減するという目標達成のために、日本が世界に誇る省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動です。例えば、エコカーを買う、エコ住宅を建てる、エコ家電にするという「選択」、高効率な照明に替える、公共交通機関を利用するという「選択」、クールビズをはじめ、低炭素なアクションを実践するというライフスタイルの「選択」。

みんなが一丸となって温暖化防止に資する選択を行ってもらうため、統一ロゴマークを設定し、政府・産業界・労働界・自治体・NPO等が連携して、広く国民に呼びかけていきます。

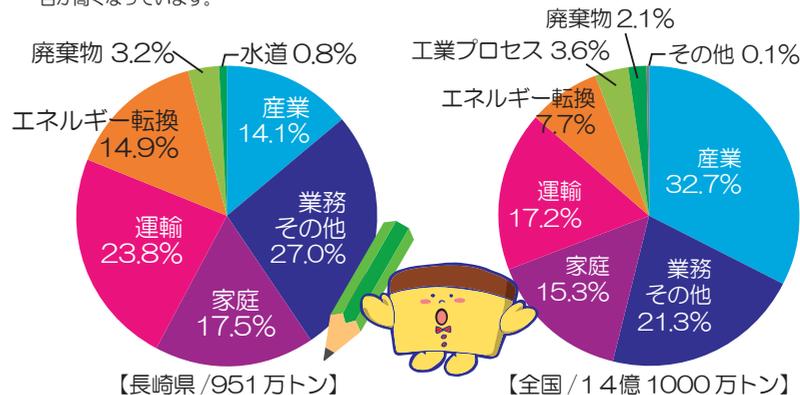
長崎県でも今年6月に30,000人の賛同者呼びかけを目標に定め、温暖化防止活動推進員が中心となり、各地で賛同者を募りました。その結果、目標には及びませんでした。お陰さまで27,000人超の賛同を頂くことが出来ました。これは、全国4位の賛同者と言う事で、県民の団結力、推進員さんの実行力を改めて感じました。推進員さん、賛同を頂いた県民の皆様、ありがとうございました！これからもエコの意識を高めてまいりましょう！



長崎県エコドライブ

平成28年度実施結果について

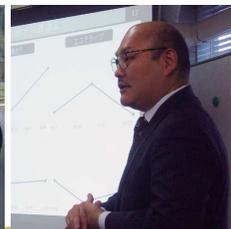
長崎県でもっとも二酸化炭素排出割合が多いのが業務その他の部門。全体の27%を占めています。次に多いのは運輸部門。全国の傾向と変わらないのですが、実は長崎県では運輸部門における二酸化炭素排出割合がとて大きいのです。図は、平成25年度のデータで、全国平均に比べて6ポイント弱も割合が高くなっています。



長崎県のこのような特徴を踏まえて、昨年12月、長崎市内の事業者の方々に協力を得て、エコドライブを実践していただきました。今回はショートバージョン、2週間はこちらまでの運転とおりにていただき、その後2週間をエコドライブを意識して運転を行っていただきました。

給油の際のオドメーター（走行距離計）の数値と給油量を記載、必ず満タン給油を行うことで、誰でも簡単にエコドライブの結果を知ることができます。今回参加したのは13社16台。83%の車両に燃費向上*が認められ、全体として5.7%の燃費向上率となりました。昨年実施したオール長崎県で実施した結果（表参照）では、4ヶ月間で平均0.6%の燃費向上率でした。これと比較すると、長崎県の環境政策の意義だけでなく、燃費向上によるコスト削減してなにより安全運転励行について十分理解されていることがわかりました。

*燃費向上 / 最初の2週間の平均燃費に比べてエコドライブ実施後の平均燃費が向上した



項目	平成27年度 NOCCA事業	平成28年度 本事業
事業者割合	84%	100%
参加登録車両数	238台	16台
実施機関	4ヶ月	1ヶ月
全体燃費向上率	0.6%	5.7%
燃費向上割合	47~49%	83%

※部門の主な内容
 平成16年4月経済産業省「各部門におけるエネルギー起源CO2排出について」抜粋

- 産業 / 工場・事業所内等
- 業務その他 / 事業所や官公庁等
- 家庭 / 家庭の住宅内
- 廃棄物 / 廃棄物処理過程
- 水道 / 水道処理過程
- エネルギー転換 / 発電等
- 業務その他 / 事業所や官公庁等
- 廃棄物 / 廃棄物処理過程
- 運輸 / 人・物の輸送・運搬
- 水道 / 水道処理過程



低炭素杯 2017

低炭素杯 2017



高校生だから出来た！
農業廃棄物の有効利用
特に規格外かぼちゃと
つるの付加価値対策

長崎県立諫早農業高等学校（長崎県）

平成 29 年 2 月 16 日に、温暖化防止活動に取組む団体の中から選ばれたファイナリスト 26 団体によるプレゼンテーションが行われました。その中で長崎県代表として出場が決まった長崎県立諫早農業高等学校は、規格外かぼちゃと廃棄されるつるや葉の活用について、地域と連携した取組を発表しました。



▲発表後にほっとひと息

高校生が発案した 農業廃棄物の有効利用

かぼちゃの生産が全国 4 位を誇る長崎県は、規格外品として処分されているものが全体の 20%にのびります。諫早農業高校では、規格外かぼちゃを加工して練りこんだ中華菓子「月餅」を開発、更に今までは焼却処分されていたつるや葉を伝統工芸品である和紙に加工することを、生徒が中心になって考えました。



▲かぼちゃのかぶり物で、紙芝居の実演中

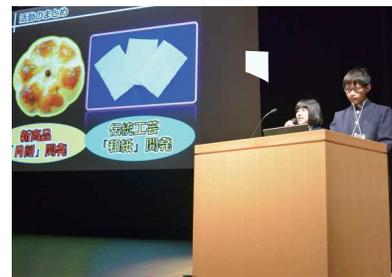
地域に広がる活動

月餅の開発では、イベントで一般人 5000 人に試食をしてもらい、アンケートを取り、菓子製造企業と改良を重ね制作しました。伝統工芸の和紙開発でも、地元の製造企業と協力し、何度も配合を替えながら開発にいたりしました。さらに活動を地域に広げるため、保育園の子ども達に手作りの紙芝居や紙すき体験を通して実際の活動について知ってもらいました。手作りのかぼちゃのかぶり物は、子ども達にも大人気です。

「低炭素杯」は、全国の市民・企業・学校・自治体などの多様な主体が取り組む、地域や団体の特性に応じた個性的な温暖化防止の活動を、市民や他の活動団体に発表することにより、取組のノウハウや情報を互いに共有し、さらなる活動に向けて連携や意欲を創出する「場」となることを目指し、平成 22 年度から開催しています。「低炭素杯 2017」では、さかなクンをアンバサダーに迎え、「市民部門」「企業部門」「学校部門」「自治体部門」の 4 部門で開催いたしました。また、環境大臣賞や各企業賞等、次世代に向けて低炭素社会の構築を目指す全国各地の低炭素な活動が表彰されました。

低炭素杯当日は 堂々とした プレゼンテーション！

低炭素杯当日のプレゼンテーションでは、わかりやすくまとめた説明に加え、かぼちゃの被り物や実際に保育園等で使う紙芝居を示して、審査員の心をぐっとつかみました。堂々とした発表を行いました。そして地元の農家や菓子製造企業、和紙製造企業、また留学生や諫早市、さらに保育園など、広く連携が取れていることが評価され、最も地域の活性化に貢献したと評価される「最優秀地域活性化賞」を受賞しました。プレゼンテーションに臨んだ 3 年生は緊張した面持ちでしたが、やりきった表情で取材に対応してくれました。「とても緊張しましたが、今まで応援してくれた方の顔を思い出しながら、感謝の気持ちを持って、堂々と発表することができました。」とコメント。



▲プレゼンターのセブンイレブン記念財団の方と記念撮影



▲学校でもたくさん練習しました！

これからは・・・

発案者である佐々木菜摘さんを初めとする 3 年生は、今年卒業し、それぞれの道へ進みます。今後について「これからも、まだまだ色々な課題があります。活動は後輩に引き継ぎますが、私達も後輩のころころへ会いに行きたいです。」と今後について温かな思いを感じることができました。



低炭素杯 2017

低炭素杯 2017



グランプリ受賞!

昔に帰る未来型

- 佐賀市下水浄化センターを「宝を生む施設」に -

佐賀市上下水道局 (佐賀県)

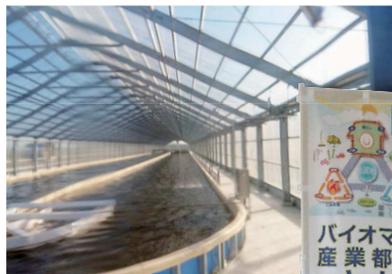
「あたりまえの暮らしが地域の力になる」をコンセプトに、人の暮らしから出る「下水」からエネルギー（豊かさ）を作り出し、低炭素・循環型社会を実現へ。佐賀市下水浄化センターでは、迷惑施設と思われがちな下水処理施設を、環境にやさしい歓迎施設「宝を生む施設」に転換するため、下水污泥の肥料化や下水処理水の海苔養殖・農業への利用、バイオガス発電等の取り組みを積極的に進めています。

今回の低炭素杯では、この取り組みが全国でもっとも優良な取り組みとしてグランプリを受賞、多くの注目を集めました。

下水污泥に含まれる窒素やリンはこれまで堆肥として利用されてきましたが、この施設では、これら物質の栄養塩を含む処理水を作り、海苔が生長する冬



▲日本初のCCU(二酸化炭素分離回収活用システム)



▲藻類培養施設

季に供給することで、地域での資源循環に貢献したことが評価されました。また同時に、下水処理場過程で発生するCO2は、高い抗酸化作用を有する今話題のアスタキサンチンを生成する藻類の餌として供給されています。迷惑施設が夢の資源生産施設となって、社会にたくさんの付加価値をもたらしている、未来の環境施設に長崎からも脱帽でした。



金賞 市民部門

取材しました!

今年はファイナリストに九州の代表がたくさん残りました。中でも、佐賀県が低炭素杯のグランプリをとり、また、毎年行っている節電活動でおなじみの「九州版低炭素マイレージ」も市民部門で金賞を受賞しました!



九州エコライフポイント (九州版炭素マイレージ制度)

九州版炭素マイレージ制度推進協議会

九州地域の住民が「家庭の電気使用量の削減」、「間伐・植樹などの環境保全活動への参加」や「省エネ製品の購入」を行った場合に、地域のスーパーやコンビニ、道の駅での買い物等に使用できるポイント券「九州エコライフポイント」を交付する仕組みです。ポイント券や懸賞品の交付が、参加者のインセンティブとなるうえ、取扱店でのポイント券使用による地域経済の活性化や特産品PRにつながっています。



▲授賞式の模様

九州はひとつ!

九州全体で取り組んでいる節電行動の参加者は年間約10000人(夏冬合計)。この大きな広がり、評価された1つの要因となりました。この節電行動をきっかけに電気料金やCO2排出量を気にするようになった方々、あるいは検針票の見方が分かった方など、県内でもたくさんの声を耳にし

ます。そして節電できた方の中から抽選でエコライフポイントが当たることが最大の楽しみ。これは各地のスーパーや道の駅で使うことが可能です。そしてもうひとつの楽しみは、抽選で各地で自慢の県産品が当たること。今年の冬の賞品として、長崎県からは対馬産の高級魚「のどぐろ」の一夜干しが提供され、節電後のご褒美として、九州のどなたかがきつとゲットしていることでしょう! コツをつかむと節電も楽しくなるもの。そして検針票を見ることが楽しみとなり、家族でも節電談義に花が咲きそうですね。今年の夏も、またこのエコライフの取組が始まります。このエコなが通信でもまたご紹介いたしますので、ぜひご参加くださいな!



▲お馴染みの節電チラシ



県内で、推進員が協力して取り組んだ学習会やイベント等の事例を紹介します。



上五島地区

力を合わせてエコしよう!!

平成 29 年 2 月 5 日に行われた上五島地区生活学校連絡協議会で、長崎地区推進員による出前講座が実施されました。推進員の中本さんを筆頭に、「力を合わせてエコしよう!!」という演題のもと、地球温暖化についての最新の話が行われました。また同時に行われたエコ寸劇では長崎地区の推進員が協力し、笑いからエコを学べる学習会となりました。



諫早地区

ブース出展で協力しました!

平成 29 年 2 月 19 日には、諫早ボランティアフェスティバルに出展しました。推進員とセンターが協力して出展したブースは、うちエコ診断、エコバッグ作り、楽器のカリンバ作り、そしてクールチョイスの普及啓発等を行い、地球温暖化にあまり関心のない方にも地球温暖化防止対策等について知っていただくことができました。



壱岐地区

エコドライブコンテスト二冠達成!

平成 29 年 2 月 19 日には、いきのしま地球温暖化防止子どもシンポジウムが開催されました。今年度、壱岐で実施されていたエコドライブコンテストでは、おなじみ推進員の長岡さんが 1 位の成績を収めました。また壱岐市地球温暖化防止対策協議会では COOL CHOICE 普及啓発も約 1 万人の COOL CHOICE 賛同者を集めていただきました。

長崎県地球温暖化防止活動推進員を募集中です

県では、地球温暖化防止のために地域住民の方々への情報提供と温暖化防止活動の普及を行う推進員を募集しています。

応募資格

県内に居住している満 18 歳以上（平成 29 年 4 月 1 日現在、高校生を除く。）の方で、応募要領に掲げる活動を実施でき、また、県などが開催する研修会や催し物に積極的に参加できる方を対象とします。

任期

委託日～平成 30 年 3 月 31 日

募集期間

随時募集中

応募方法

応募申込書に必要事項を記入の上、下記申込先まで提出ください。
※応募申込書は HP でダウンロードできるほか、県環境政策課より郵送いたします。希望される場合は、下記お問い合わせ先へご連絡ください。

県HP

<http://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kurashi-kankyo/kankyohozen-ondankataisaku/ondanka/suishin>

推進員はこのような活動を行っています。



お申込・お問合せ先

長崎県環境政策課 長崎市江戸町 2-13
電話：095-895-2512 Eメール：s09010@pref.nagasaki.lg.jp

